

## 「サンタクロースは本当にいるか？」

参考著書「人生の目的に気づく24の物語」中山和義著より

サンタクロースは、本当にいるんですか？  
子どもの頃、誰もが一度は疑問に思うことです。  
驚いたことに、新聞の社説に、その答えが書かれたことがありました。

アメリカに住んでいる8歳の少女がニューヨークにある新聞社、サン新聞に手紙を送ったことがきっかけでした。  
その手紙には、

「私は8歳です。私の何人かの友達は『サンタクロースはいない』と言います。  
パパは『サン新聞に聞いて、いないというならその通りだ』と言います。  
どうか私に本当のことを教えてください。  
サンタクロースはいるのでしょうか？」

と書かれていました。  
この手紙を受け取ったサン新聞の社説には、

「それは友達の方が間違っています。  
サンタクロースの姿は誰にも見えません。  
でも、だからといってサンタクロースがいないということにはなりません。  
目に見えるもの、手に触れられるものだけがこの世の全てではないのです。  
たとえ目に見えなくても、たとえ手で触れることができなくても、愛や思いやりは感じられるでしょう？  
なら、サンタクロースがいないなんて、誰に言えるのでしょうか？  
たとえサンタクロースを見た人が誰もいないとしても、それがサンタクロースがいない証拠にはなりません。  
この世で本当に大切なことは、大人にも子どもにも見えないのです」

と書かれていました。

## コメント

この世で本当に大切なことは……  
誰にも見えません。  
しかし、感じることは誰でもできるはずです。

目に見えることだけを見ていたのでは、人生の目的を見つけることはできないでしょう。

信じていることができる人が、一番幸せになれるんですね。